

日本建築家協会主催のシンポジウムにおいて講演を行いました（2023/4/26）

テーマ：事前復興、土木・都市計画・建築の連携
会場：オンラインおよび JIA 東北支部事務局（仙台市）

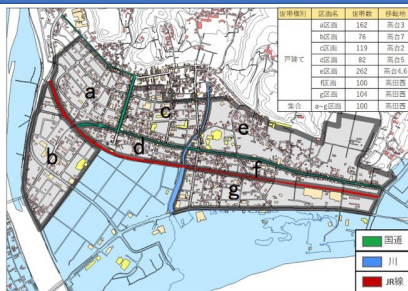
2023年4月26日、公益社団法人日本建築家協会（JIA）災害対策会議が主催するシンポジウム「復興の事前準備を考える -土木・都市計画・建築が連携する事前復興-」が開催されました。JIA と当研究所は、多発する自然災害への対応を鑑み、包括的な連携のもと相互に協力することを目的として、2021年より協定を締結しています。この協定締結を機に、被災地の知見・関係性をこれから未来の被災地に広げるため災害対策シンポジウムを開催しており、今回は昨年に引き続き第2回となります。

東日本大震災からの震災復興を契機に事前復興が取り組まれています。①事前復興の現状を知り、②課題について共有すること、③東日本大震災の教訓のひとつである「行政上の縦割りを如何に末端で統合するか」について議論を深めることをシンポジウムの目的としています。

当研究所の村尾修教授（国際防災戦略研究分野）は、「事前移転による被害軽減効果」と題し、東日本大震災被災地や南海トラフ地震で甚大な被害が想定される地域を対象に事前移転の現状や課題に関して、また事前移転のシナリオを設定しその効果を定量的に分析した結果等について講演しました。

第2部のディスカッションでは、空間デザイン戦略研究分野の姥浦道生教授と平野勝也准教授も加わり、土木・都市計画・建築が連携する事前復興について議論しました。その中で平野准教授は、「専門家は公共事業について認識を深めなくてはならず、また公共事業に精通した人材が復興に関わる必要がある」と話しました。

住民の区画分けと各区画の世帯数・移転地



講演スライドより抜粋（村尾教授）



パネリスト（平野准教授）



討論の様子（村尾教授（左下））



パネリスト（姥浦教授）

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）